

令和6年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立遊子小学校

1 自己評価書

教育目標	「ふるさとを愛し、たくましく生きる児童の育成」				
基本方針	○自分の設定した目標に向かって努力する児童の育成に努める。 ○地域の教育資源を最大限に生かすふるさと教育の充実を図りながら、保護者や地域と連携協働することで、地域とともにある持続可能な学校を推進する。				
本年度重点目標	○ 将来の姿を共有しながら、一人一人の可能性を伸ばす ～「遊子っ子 あいうえお」の具現化～ あ 気持ちのよい挨拶や返事など、当たり前なのが当たり前でできる態度を育てる。 い 「自分の命は自分で守る」を合言葉に、学校安全教育の充実を図り、安全・安心で充実した教育環境の整備に努める。 う 目標に向かって粘り強く取り組み、運動・勉強で達成感を味わえるように努める。 え 様々な交流・体験活動を充実させることで、いじめや不登校のない笑顔あふれる学校づくりに努める。 お 遊子地域の教育資源や人材を活用した体験活動に取り組むことで、ふるさと遊子を思いやる子を育てる。				
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成	B	B
			・具体的な対策の実施	B	
	② 授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート	A↑	A↑
			・保護者アンケート	B↓	
			・児童生徒アンケート	A↓	
	③ 家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
	④ 読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	B↓	
			・児童生徒アンケート	A	
	⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
	(成果○と課題●) ○②主体的・対話的で深い学びの実現を目指して授業改善に取り組んだ結果、教師、児童については評価が上がった。家庭で授業が楽しいと話している児童は逆に減っている状態なので、引き続き、授業改善に努める。 ○●⑤今年度、総合的な学習の時間を3～6年生合同で行うことにした。これは、4学年の児童が意見を交流し合うことができ、多様な見方、考え方に触れるよい活動になった。ただ、内容が多く、来年度からの継続した活動にするには、担当する教員の負担が大きく、改善の必要を感じる。また、活動の実施時期などは、年間計画に大まかに示し、学級担任も見通しを持てるように連携する必要がある。 ●①各調査の分析による成果・課題把握はできているが、組織的・具体的な課題改善の対策推進は不十分なように思う。 ●①～④日々、学力向上に努めているが、各調査の結果分析から具体的な対策を講じたり、授業改善、家庭学習、読書活動の充実を図ったりするための時間や手立てが十分ではない。 ●④読書内容に個人差がある。全校的に、昨年度より学校図書館の貸出冊数が減っている。ぐんぐん週間は、できていない項目について声掛けをするが、なかなか改善されない。				
(改善策等) ①課題と改善方法を明確化し、限られた時間の中で成果を上げるために、組織的に取り組んでいく。 ④補充学習などで読書時間を確保する。 ①～④研修会や職員会などを利用して、全員で話し合いを行う機会を設ける。一つ一つの課題について話し合い、取り組むことを明確にして無理なく継続できる体制を作る。 ⑤今年度の取組で、来年度も同じ時期に行う活動が決まっているものがある。それらについては、早めに時期を学級担任と相談しておくことが可能なので年度当初に相談時間を確保するとい。海の学習については、探究的な学びになるよう検討するとともに、外部講師による授業や体験活動の時期なども学級担任と相談してある程度の時期を決めておくとい。					

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	A	A	
			・保護者アンケート	A		
			・児童生徒アンケート	B↓		
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
		いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。		・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A↑	
	③ 関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。		・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
	④ 自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。		・教師アンケート	A	A
				・児童アンケート	A	
		自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。		・教師アンケート	/	
				・児童アンケート	A↑	
<p>(成果○と課題●)</p> <p>○②④いじめの未然防止、自己有用感に関する児童のアンケート項目の評価が上がった。児童は、1学期からどんどん成長しており、明るく伸び伸びと学校生活を楽しんでいることが分かる。様々な学校行事や学校生活を通して友達と協力して取り組んだり、地域での学びを通して人の役に立つ経験を多く取り入れたことが要因になっているかもしれない。</p> <p>●①児童の規範意識の評価が下がっている。児童の様子を見ると、楽しくなりすぎて決まりが守れなかったり、行き過ぎた言動で友達に嫌な思いをさせてしまったりしていることがあった。</p> <p>●①児童が地域の方々に大きな声であいさつができるようどうにかしたい。</p>						
<p>(改善策等)</p> <p>①けじめをつけることの大切さや決まりを守ることを意味などを、その都度、児童に伝え、児童自身が考える場を設けながら、継続して指導にあたる。また、周囲へのあいさつについては、今後も継続して指導を行っていく。</p>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート	B↑	B↑	
			・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B↑		
	② 働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A	
			・教師アンケート	A	A	
	③ 他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A	
	<p>(成果○と課題●)</p> <p>○①ワーク・ライフ・バランスの教師の評価が上がった。業務改善コンサルティング事業を通して、様々な取組や意識改革ができてきたことも一要因として考えられる。しかし、まだまだ、超過時間が長いので、今後も継続して業務改善に努める必要がある。</p> <p>●③それぞれの職務において、組織的に学力保障や安心感を大切にした学校・学級経営に努めている。一方で、一人職が担う本来の職務が、後回しになっている部分があるので、業務改善を更に推進し、子どもの最善の利益につなげることが大切だと考える。</p> <p>②自分のすべき仕事を忘れることがあった。</p> <p>③規模の小さい学校なので、児童の状況を全員の教員が把握しやすく、全教職員で情報共有をすることができた。今年度からは児童の負担も考え、委員会活動も委員会の数を減らして対応したことで、教員も児童も少ない人数でも対応が可能だった。</p> <p>(改善策等)</p> <p>①課題と改善方法を明確化し、限られた時間の中で成果を上げるために優先順位をつけ、組織的に取り組んでいく。</p> <p>①③もう少しゆとりを持って業務ができるよう再検討する。目標チャレンジ制度の適正な運用により、教職員の職務意欲の向上及び人材育成につなげていく。</p> <p>②メモをこれまで以上にとる。退勤するまでに仕事を確認する。</p> <p>③今後も、情報共有をこまめに行い、現状の課題点から改善策を考えたり、様々な人材の長所を生かして業務にあたるように連絡・調整を計画的に行ったりする。</p>					

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A
		学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	A	
	② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・地域アンケート	A	A
			・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	A	
	③ 来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・地域アンケート	A	
<p>(成果○と課題●) ○●②地域の方々に、協力していただくことが多かった。 ○●③これまで、一度も学校への批判的な意見や電話の対応をしたことがない。大変、ありがたいことだと感じる反面、学校に言いにくい状況だとするとしっかりと現状把握する必要があると感じている。</p>					
<p>(改善策等) ③保護者や地域の方と話をする機会を積極的に設け、遠慮なく話していただける雰囲気づくりに努める。</p>					
<p>(学校運営協議会の方より) ・子どもたちがよくあいさつしてくれる。 →ありがとうございます。教師側とすると、まだまだだと思っていますが、こうした御意見をいただいたことを児童にも伝え、更によくするように努めます。</p> <p>・運動会、学習発表会ともに楽しく見せてもらった。全員が協力して一つ一つの演技に取り組む姿がとてもよかった。 →ありがとうございます。子どもたちは、一つ一つの行事で大きく成長します。教員もその点を十分に踏まえ、今後とも指導にあたっていきます。</p> <p>・統合にあたり、遊子の学びに的を絞らず、「学びを工夫されている」講師の方を招き、親子で楽しく学んで向上できる場を作ってみてはどうだろうか。新しい環境の保護者にとっては、どんどん学校に招いてあげることで安心感が増すのではないか。1年間の計画を示し、教員との交流も行い、情報交換を増やしては。 →ありがとうございます。結出小・蔦淵小の子どもたちだけでなく、保護者の方にも遊子小に来てよかったと思ってもらえるように様々な取組を行っていきたいです。もちろん、遊子小の子どもたち、保護者の方にもよかったと言ってもらえるように努力します。</p> <p>・最近、「平等」と「公平」のちがいについてあらためて認識する機会があった。理解しているようでそうでなかったことに「ハッ」とした思いだ。小学生の学びとしてはどうだろうか。 →「平等」差別がなく、みんな同じであること。「公平」(考えや行いが)一方にかたよらないこと。辞書を引くと、このように出てきます。子どもたちは、一人一人違います。その中で、一人一人にあった支援や配慮は違います。支援は、平等である必要はないと思っています。しかし、一人一人の成長を願い、公平に接することは大切だと考えます。それぞれの子どもの最大限の成長を目指して、教員は日々、対応していく必要があると思います。</p> <p>・子どもの自主性を育ててほしい。自然災害他、何が起るか予測のつかない時代。「どう行動したらよいか」「どう生き抜くか」自分で考えて行動できるための根源が育つことを願っている。 →小規模校では、大人が口を出し、手を出してしまうことがありますが、子どもたちの自主性を育てるためには、そこをぐっとがまんすることも必要だと思っています。今後、どのようなことが起るかわからない世の中を生きる子どもたちにとって、必要な力は何かということを経験でも共通理解し、取り組んでいきたいと思えます。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満